「機械学習を用いた糖尿病患者の腎症進展予測モデルの開発」に対するご協力のお願い

研究責任者　畔上　達彦
研究機関名　慶應義塾大学医学部
（所属）　腎臓内分泌代謝内科

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「８　お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

１　対象となる方

2012 年 1 月 1 日以降に慶應義塾大学病院腎臓内分泌代謝内科に通院した 18 歳以上の 2 型糖尿病患者さんのうち、2012 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日の期間内に新たに微量アルブミン尿（尿中アルブミン/クレアチニン比 30 以上 300 未満）を認めた方

２　研究課題名

承認番号　20241007
研究課題名　機械学習を用いた糖尿病患者の腎症進展予測モデルの開発

３　研究組織

研究機関	研究責任者
慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科	助教　畔上達彦

４　本研究の目的、方法

本研究は、新たに微量アルブミン尿（尿中アルブミン/クレアチニン比 30 以上 300 未満）を発症した糖尿病患者さんを抽出し、その後のアルブミン尿増加, 顕性腎症への進展、腎機能低下（eGFR 低下）等のパターンから、機械学習を用いて糖尿病性腎症の進展予測モデルを構築することを目的としています。

対象となる方が微量アルブミン尿を認めた時点から最大 10 年間を観察期間とし、その間に顕性腎症（尿中アルブミン/クレアチニン比≧300）を発症するか否かをもとに、機械学習を用いてベー

スライン因子から顕性腎症発症の予測モデルを構築します。

５　協力をお願いする内容

対象となる方の、計測データ（身長，体重，血圧など），血液検査，尿検査，診療録情報（糖尿病罹病期間，既往歴・合併症，飲酒歴・喫煙歴など）を収集します。これらのデータは電子カルテ上で収集し、個人が特定できる情報を削除した状態で保管し、解析を実施します。対象となる方に、新たに協力をお願いすることはありません。

６　本研究の実施期間

研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日

７　外部への試料・情報の提供

該当しません。

８　お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

研究責任者

慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科

畔上　達彦（あぜがみ　たつひこ）

電話番号　　03-5363-3796

FAX　　03-3359-2745

対応可能時間 月曜～金曜　10:00～17:00

以上